

平成29年2月3日

丹(まごころ)の里創生
総合戦略推進委員会 委員 様

丹波市企画総務部 政策担当部長

シティプロモーション推進方針策定への参画について (お願い)

平素、市行政各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

次回、2月10日の第2回丹(まごころ)の里創生総合戦略推進委員会でもお願いを申し上げる予定にしておりますが、事前に文書にてお知らせさせていただきます。

平成29年度の予算編成が終わり、12月に就任された谷口新市長の重要施策が要所々に芽吹いております。中でも、特に力点を置いているのが、「シティプロモーションの推進」であります。

2年後の2019年は、市制15周年、丹波市豪雨災害5周年、また統合病院が開設する節目の年となります。この2019年をひとつのターゲットイヤーとして、本市の誇るべき多くの伝統・文化・観光・丹波ブランドの特産物などを、市民と総力を結集して、全国に発信するシティプロモーションを展開していくことをあげております。

そこで、平成29年度には、「丹波市シティプロモーション推進方針」を策定することとしており、それに対する意見聴取を本推進委員会にお願いしたく考えております。

一般の総合戦略の改訂において、「シティプロモーションの推進」を掲げ、最上位の戦略事業として取り組んでいきたいと考えております。

つきましては、推進委員会に下記の所掌事務を追加させていただき、総合戦略と併せてシティプロモーション推進方針についてもご意見を賜りたく存じますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

記

丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略推進委員会設置要綱 (下線部が修正箇所)

現行	改正案
(所掌事務) 第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。 (1) 総合戦略の評価及び改訂に参画し、意見を述べること。 (2) 前号にかかげるもののほか、丹波市丹(まごころ)の里創生推進本部(以下「推進本部」という。)が必要とする事項について、意見を述べること。	(所掌事務) 第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。 (1) 総合戦略の評価及び改訂に参画し、意見を述べること。 (2) <u>丹波市シティプロモーション方針の策定に参画し、意見を述べること。</u> (3) <u>前号にかかげるもののほか、丹波市丹(まごころ)の里創生推進本部及び丹波市シティプロモーション推進本部(以下「推進本部」という。)が必要とする事項について、意見を述べる</u> こと。

シティプロモーションの推進体制について（案）

市制15周年の節目である2019年を「丹波市元年」と位置付け、市民の丹波市への愛着や誇りを醸成し、丹波市の総力を挙げて、市の魅力を内外に広く情報発信する市民運動を展開するため、シティプロモーションの推進体制を整える。

1 シティプロモーション推進本部の設置

市長を本部長に、副市長を副本部長に充て、丹波市のシティプロモーションを全庁的に推進するため設置する。本部員は、部長級職員を充てる。

2 シティプロモーション懇話会の設置

丹波市の魅力を発掘・創造して、これを市内外へ発信することで、地域の統一イメージを形成し、丹波市のブランド力を高めるとともに、まちづくりに様々な効果を波及させる取り組みを行うにあたり、各分野の有識者から意見を聴取するためにシティプロモーション懇話会（異能の有識者5名程度）を設置する。市長の私的諮問機関としての位置付けとする。

3 シティプロモーション推進方針の策定

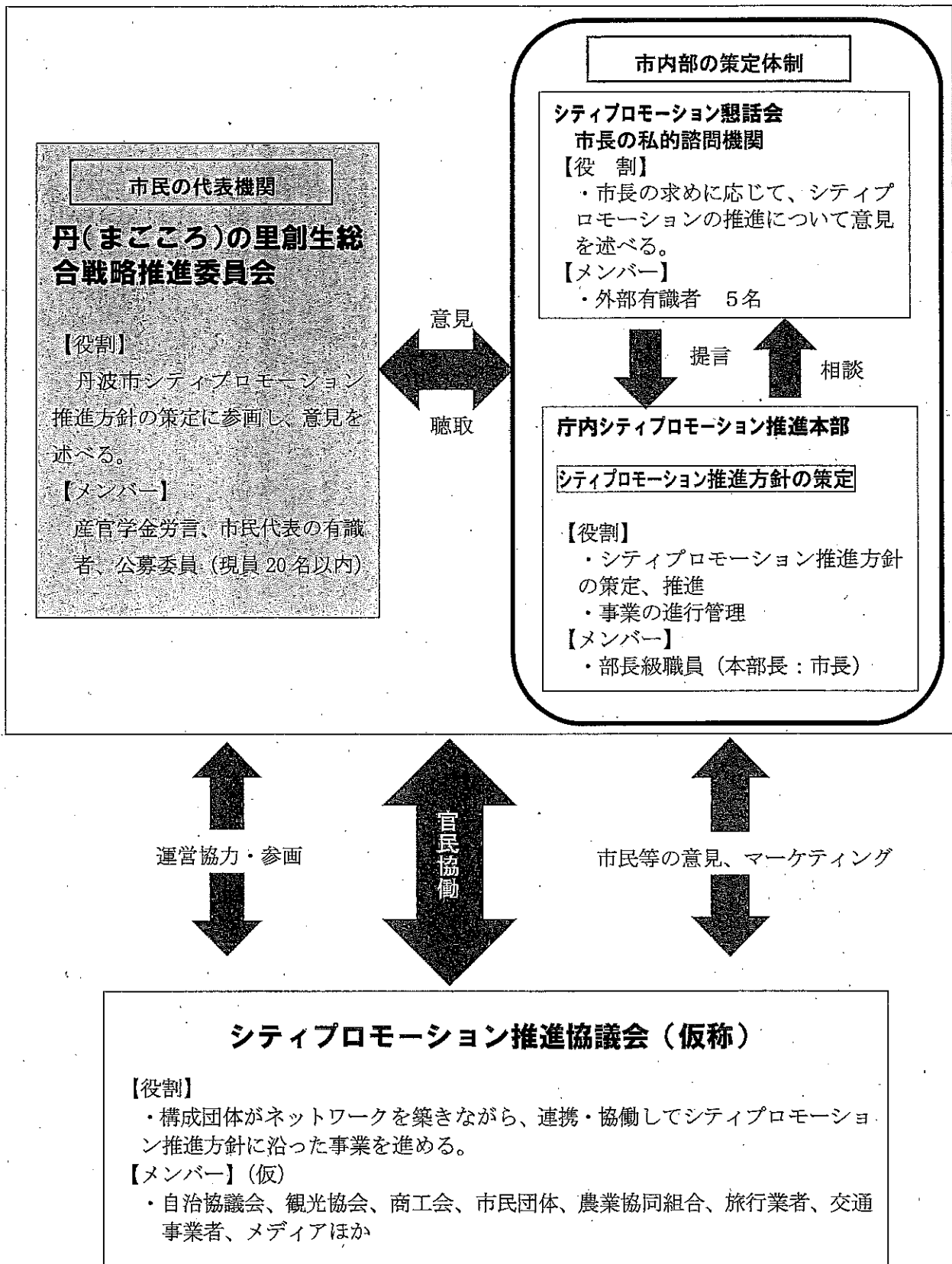
シティプロモーション推進方針を策定するにあたり、丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会（産・官・学・金・労・言・公募の市民）に意見を聴取する。

4 シティプロモーション推進協議会の設立

シティプロモーションの推進には、市民の参画が不可欠である。推進方針に関連する事業を連携・協働して進めるために「シティプロモーション推進協議会」を設置し、構成団体のネットワークを築き、市民、市民団体等が総力をあげて取り組んでいく。

5 シティプロモーション推進体制（模式図）

シティプロモーションの策定体制について（平成 29 年度から）



一緒にワクワク・ドキドキ！ シティプロモーション

「マーケティング」とは、企業などが行う「顧客が求める商品やサービスを生み出し、提供するための戦略的な活動」と耳にされていると思います。具体的には「いかに顧客を獲得するか」「どうすれば黒字を出せるか」を考えることと理解しています。「マーケティング」という言葉は、行政ではなじみがありませんが、「行政においても一脈通じるところがあるのではないか」と考えました。

市役所に置き換えて考えると「どうして市民の方の心に寄り添うか」「どうすれば市民の方がワクワク・ドキドキできるか」「どのような制度やサービスをつくり“住みたい、帰りたい、トカイナカ丹波市”を実現するか」…。結び付け方がいささか乱暴かもしれませんが、「市民の満足度」を絶えず念頭に置いて行動をすることこそが「丹波市スタイルのマーケティング」であろうと考えています。“スピード感”“実行力！”を信条に、民間企業の良いところに学び、仕事を進めていきます。市役所・公務員らしい仕事の仕方ではなく「一線を越える」ような積極的な姿勢で努力を続けたいものです。

2019年、新たな元号が制定されるとの報道がありました。国民の気運は一新されます。市にとっても市制15周年・丹波市豪雨災害5周年の節目の年です。2019年を「丹波市元年」として、まちを売り出す「シティプロモーション活動」を本格化します。市には数多くの誇るべき伝統・文化・人々の営みがあります。これらをフル活用して、磨きをかけ、丹の里を舞台に、キャンペーン・リレーイベントを大々的に展開したいと考えています。このとき、市民の方々と「ワクワク・ドキドキ感」を共有したいのです。これこそ「市民満足度」を念頭において進めなければならないものです。

「6町ごとにバラバラだ」なんて言わずに、お互いの個性を認め合いましょう。それぞれの町の宝を真珠に見立て、つないだ「真珠のネックレス」を創りましょう。金子みすずの詩のように“みんなちがって、みんないい”。個性を認め合い、互いに固く連帯しようではありませんか。

丹波市長 谷口進一

